

発行所

**日本歯科色彩学会**

発行人 片山伊九右衛門

T 350-0283 埼玉県坂戸市けやき台 1-1  
明海大学歯学部保存修復学講座内

日本歯科色彩学会事務局

TEL 049-294-5429

FAX 049-294-5455(FAX 専用)

<http://www.colorland.co.jp/jacd.htm>

E-mail: ikucolor@fb3.so-net.ne.jp

## 見学会委員会主催 ニコン見学会開催される

さる2005年2月20日(日)、見学会委員会主催のニコン見学会ならびにセミナーが東京・新宿のニコンショールームにて開催されました。長崎、広島、大阪、新潟、長野などから定員の20名を越える28名の申し込みがあり、ニコンの方には急遽カメラの増台をしていただき、1人に1台のデジタルカメラという恵まれた使用環境で、デジタルカメラの使い方から画像処理、フィルムスキャナの使用方法までを、初心者にとってはわかりやすく、中級者以上にとっても基本から応用までを専門家から直接指導していただいた有意義な見学会でした。

内容を少し報告すると、今回は2004年のカメラグランプリを受賞した新機種のD70中心の実習でした。まずはコンパクトカメラと一眼レフデジタルカメラの比較からはじまり、両者にはCCDの大きさが10倍位の差があり、きれい・はやい・使い易い、つまり画質・性能・操作性どれをとっても一眼レフに軍配が上がるという話でした。口腔内撮影に際しては、F2.2位まで絞り、シャッタースピードはスピードライトが1/500まで同調できるのであまり気にする必要はなく、たとえばF1.8、ISO800、発光1/32で、ヒストグラムで確認し、感度で微調整してはどうかということでした。記録はJPEGのNormalかFine、画素数は600万画素がおすすめのことでした。撮影前にはまず視度調整をして、構え方は左手を下に添えて脇を締め、左を少し前に出すと締まりますなど、カメラの専門家らしいアドバイスもありました。

ニコンキャプチャーを使ったRAWデータの使い方では、グレー点の設定などRAWのメリットがよく理解できました。さらにスライドなど貴重なアナログ資産をどう生かしていくか、スライドスキャナを使ったスライドのデジタル化についても解説とデモがあり、スライド上のほこりや指紋がいつも簡単に除去できてしまうすばらしさを体感できました。

今回のセミナーはニコン塾というニコンの有料セミナー、D70使い方コース、画像処理コース、フィルムスキャナコースという3つのセミナーを歯科用にアレンジした限定コースで、いわばおいしいところだけを厳選して特別に開催していただきました。お忙しいなか周到な準備をされ、貴重なご講演をしていただいた講師の倉持永先生はじめ株式会社ニコンの関係各位に厚く御礼申し上げます。(中澤 章記)

## 新入会員の御紹介 (敬称略)

平成17年4月1日以後にお手続き下さった、新入会員です。よろしくお申し込み申し上げます。

宮崎真至 日本大学歯学部保存学教室修復学講座 TEL 03-3219-8141 FAX 03-3219-8347

安藤 進 //

上江州香実 日本大学歯学部松戸歯学部数学 TEL 047-360-9306 FAX 047-360-9306

柏木宏介 大阪歯科大学有歯補綴咬合学講座 TEL 06-6910-1518 FAX 06-6910-1046

鳥井克典 //

藤井孝政 //

鷹尾智典 //

中尾紀子 (安達) 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 医療科学専攻 発生分化機能再建学講座 顎顔面病態矯正学分野  
TEL 095-849-7669 FAX 095-849-7670

広瀬直子 明海大学歯学部機能保存回復学講座保存修復分野

TEL 049-294-5155 FAX 049-279-2741

宮崎 愛 山本金属地金株式会社 高知県香我美町上分字大谷 1090-3

TEL 0887-55-0038 FAX 0887-55-0018

# Importance of Color Training in Dental Education

Dr. Franklin García-Godoy

Professor and Associate Dean for Research, Director, Bioscience Research Center,  
College of Dental Medicine, Nova Southeastern University, Fort Lauderdale,  
Florida, USA

Color is a psychophysical sensation that results when the human visual system responds to the light reflected from objects in a scene.<sup>1</sup> In order to obtain excellent esthetic restorations, understanding color and its characteristics is fundamental.

Adult and child patients alike desire an esthetically pleasant smile. In fact, children as young as three years of age are able to distinguish between attractive and unattractive peers.<sup>2</sup>

Primary teeth are generally considered to be lighter than permanent teeth, but only a few studies on color of primary teeth have been reported. Hosoya et al.,<sup>3-6</sup> evaluated color of primary anterior teeth of 60 Japanese children using different measuring devices.

Color is an attribute of the sensation of vision and derives from the fact that the retina contains three classes of photoreceptors, which have different sensitivities to wavelengths of light.<sup>1</sup> For example, in a recent study,<sup>6</sup> color differences ( $\Delta E^*ab$ ) between maxillary primary central incisor and other primary anterior teeth were 0.3 to 1.38, a range that is close to the perceptibility limit of the human eye. Values of  $a^*$  and  $b^*$  were low. The  $b^*b$  values were lower than those of permanent teeth. Based on these results, the primary anterior tooth surface color is almost white.

Interestingly, in general, these concepts are not taught in depth in dental schools. The curricula of dental schools are mainly oriented to color in Prosthodontics, where gold crowns with esthetic facings or full ceramic crowns are performed. Even like this, color is taught as a "shade guide" approach to communicate with the dental laboratory that will manufacture the crowns.

With the advent of resin-based composites and the increased demand of the public for more esthetic restorations, it is fundamental to teach to all dental students and dentists in general the basic concepts on color matching, communication, and reproduction. This, in turn will provide the appropriate knowledge for achieving lifelike color and appearance of restorations, which are probably the most important parameters in esthetic dentistry.<sup>6</sup>

Producing lifelike appearance in a restoration is one of the most challenging tasks in dentistry as the dentists need to meet the patient expectations.<sup>7</sup> Color really is unimportant to the mechanical or physiological success of the restoration, but it is the controlling factor in overall acceptance by the patient.<sup>8</sup> Interestingly, over 80% of patients having anterior ceramometal restorations were aware of the color differences relative to their adjacent natural teeth.<sup>9</sup> From a customer-based point of view, this is totally unacceptable and it may reflect the fact that proper training in color selection, determination, and matching is not adequate in dental education. And perhaps the present clinical tools dentistry has available is not adequate either as they do not take into consideration subjective issues such as color perception, color deficiency, color blindness of the clinician.

Besides teaching the basic characteristics of color, as an art and science, the profession should concentrate in a joint effort with industry to develop tools that are objective color receptors that bypass the subjective perception of the individual clinician. In this manner, color matching with adjacent natural teeth will be more precise and will therefore satisfy the patient demand.

## REFERENCES

- 1) Citron C: Esthetics in pediatric dentistry. *NY State Dent J* 1995; 61:30-33.
- 2) Hosoya Y, Goto G: Study on the primary teeth color. (I) Chromatical measuring with color and color difference meter 1001 DP, *Jpn J Pedod* 1985;23: 69-77.
- 3) Hosoya Y, Goto G: Study on the primary teeth color. (II) Chromatical measuring with light guided color difference meter CD-270, *Jpn J Pedod* 1986;24: 428-437.
- 4) Hosoya Y, Furutoyo F, Goto G: Study on the color of primary teeth. Report 3, *Jpn J Pedod* 1988;26: 80-88.
- 5) Hosoya Y: Chromatical measuring of primary teeth, *J Clin Pediatr Dent* 1993;17: 149-155.
- 6.) Paravina RD, Powers JM. Esthetic color training in dentistry. St. Louis: Elsevier/Mosby, 2004.

7) Preston JD. Current status of shade selection and color matching. *Quintessence Int* 1985;16:47-58.

8) Bergen SP. Color in esthetics. *NYS Dent J* 1985;51:470-471.

9) Kawaragi C et al. Evaluation by dentists and patients concerning the color of porcelain-fused-to-metal restoration. *Dent J Iwate Med Univ* 1990;15:9.

細久由美子副会長のご友人である Dr. Franklin García-Godoy から、本学会の皆様にご寄稿文をいただきましたので、紹介いたします。今後学術交流ができることを期待いたします。

Color は色か、色彩か、色調か、シェードか。

色と色彩は同意語と理解してきたが、本山智子著の「基礎色彩学—構造的アプローチ」第一法規出版を見ると、「ところでこれまでの記述は、色と色彩という言葉を用いてきた。これは、色彩用語に対するわれわれの用い方の実態を反映したものである。わが国では、色と色彩とを強いて区別しないで、混用ないしは共用するのが一般的傾向である。この傾向は余りよいとは言えないが、長年の慣用なので、これを簡単に改めるのは困難であろう。他方、欧米では両者を区別して用いる傾向が強い。すなわち、color of light と color とを区別して用いる。日本語に改めると、前者は色であり、後者は色彩と言うことになる。この区別は、学問的には厳密に規定されているが、それはわれわれの日常生活には余り重要ではない。したがって、次のように理解すればよいだろう。色には光源色 (light source color) と物体色 (object color) の二種類がある。このうち、物体色はすべて color (色彩) である。さらに光源色であっても、光源物体が知覚される場合には、color (色彩) として取扱われる。したがって日常生活のうえで、色と色彩とを明確に区別して用いることは、必ずしも当を得たものではない。このように考えて、この書物では強いて区別していない。」

歯科関係の論文で見られる Color の用語は日本語では昔は殆んどが色調であった。英語では shade が多い。シェードを色彩科学事典で開くが、画家は色をヒュウ (色相) とチント (白味) とシエード (黒味) で表すとある。チントはもともとは白いものにちょっと色がついた様子をいう。トーンは色調のことで、本来はチントとシエードを合わせた概念である。しかし、現在ではチント (白味) に対するトーン (黒味) として、シエードの意味でトーンを使う。とある。また、よく似た言葉に、白黒画像でしか得られていない情報に任意に色を付けて判読の便に供した画像をシェード・カラー (pseudo-color)、すなわち偽の色という。

現在の論文では色または色彩が多く使われており、日本色彩学会雑誌 (歯科ではない) などでは、色調やシェードの言葉は見当たらない。辞書で調べると、審美=美と醜を区別する。美学=自然・人生、芸術における対象。色=色彩と同意。カラー=視覚のうち光波のスペクトル組成の差異によって区別される感覚で、波長だけで定まらず一般に三要素によって規定される。

色とは=物理、生理、化学、心理、デザイン、ファッション、歴史などで構成され、叙情的には、女 (いろ、情人、小指で示す人)、英雄色 (女性) を好むなどで用いられる。

色調=色彩の強弱・濃淡の調子 (広辞苑)、類字にトーン (色彩大辞典) で色の明度と彩度とを同時に考えた場合の知覚的評価。シェード=光源の直視を防ぐための不透明な材料での覆う (照明用語事典)、特定の色で色相から少し離れた色、工業では明度の類字 (指宿) などで、色調やシェードガイド、シェードマッチングは歯科で常用されるが、一般の色彩学では、殆ど使用されることのない言葉である。

本会 { 歯科の色彩 } でも色に対する言葉が統一されていない。11 巻 1 号の巻頭言で天笠光雄常任理事が「歯科医学を色彩で論ずる」と色彩という言葉を使っている。今後、私も色、カラー、シェードでなく、色彩という言葉を使ってみようかな。ご意見をお待ちいたします。 (片山伊九右衛門)

## 和田精密が美術館設立される

本会創設に尽力くださり、本会の役員の方、和田精密社長の和田弘毅氏が美術館を開館しました。夢ある美術館はますます発展いたしますようお祈り申し上げます。

和田精密歯研 (本社・大阪市、和田弘毅社長) は 5 月 15 日、香川県庵治町に美術館「アートファミリー巫福城 (みふくシャトー) (久保善彦館長) を開館した。

景観に優れる瀬戸内海の海辺に面した鉄筋 4 階建ての建物には、和田社長が集めた日本やアジア諸国の美術品、陶芸品、工芸品が展示されているほか、歯科関連では、外国の児童が描いた歯にも関連した絵、同社が歯科技工の立場から提案する最新のインプラントシステムの模型・パネル展示などもされて

いる。

同日開かれたオープン披露パーティーには、来賓の香川県歯科医師会会長の山下喜世弘、元 FDI 会長の鶴巻克雄、日本歯科技工所協会理事長の桑原敏勝、庵治町長の梶河正孝氏はじめ全国から約 200 人が出席した。謝辞で和田社長は、家族での気軽な来館を求めるとともに、今後は同館を家庭的な芸術発展と、歯を通じての世界交流の場としていく意向との考えを示した。

電話 06 (6321) 2101 (日本歯科新聞 4 月 26 号 3 面から)

## 東洋医学と色彩

天から降り注ぐ光、その光と空間のおりなす、青く透き通る空、情緒溢れる夕焼け、幻想的な虹、これらは光の方向が、宇宙空間の一部である自然現象の中で、分光分布が変換され発した現象です。それらの自然現象を我々人間は眼を通じて色彩感覚を得ることができます。私どもの空間には色彩が満ち溢れています。色彩が天空から生じるように、東洋哲学も同じく天空から生じそして一つのTAO（道）で大河のように流れているとされています。東洋哲学者は、西洋の思想とは異なる方法で感情を表現します。彼らは、自然観に純粋な気持ちをもって接します。そして彼らは、自分の内なるものと外なるものは、宇宙（大自然）と心身一体であるという事を現実として受け入れています。また、生命はどこからやって来て、私達を通過し、またどこへ過ぎ去って行くのかを気づいていますし、生命の統一感を感じ取っています。これらのネットワークを東洋医学では、基本にして構築されています。東洋医学では、これら自然の気の流れのアンバランスが不調の原因と考えます。医学の診断は、数値や平均値のみにこだわらず、基本として問診：よく対話し質問をします。問診・臭診・患者の声、呼吸のリズム、臭いを感じます。切診：体表を触れて体温や異常を確認します。脈診もこれに含まれます。望診：もっとも重要な要素で、患者の様子、舌、鼻、肌、顔色などを観察します。この四診でことに歯科医学専門の私どもは得意分野である顎顔面領域の診断。顔診と舌診は重要な診断ファクターであると思われます。特に舌診は、東洋医学的診断を下していくうえでかなりの割合で確定診断へと導いてくれます。舌診と顔診は具体的にはどのような方法をとるかと申しますと、もちろん動き、大きさ、形をも含めて観察します。また、色彩に関して多くの診断ソフトが、先人の方々によって示していただいております。これら先人の診断ソフトと経験を基にして証をたて、鍼灸治療や方剤を処方することとなります。ここで、色彩判断が的確に行われるかどうか診断の大きな決め手となります。また昨今、カルテ記載の正確性と医師と患者とのラポール形成の重要性が問われています。診断に基づいた色彩再現性と規格化された画像の記録は、我々医療人にとっても患者にとっても大変意味のある事と思われます。また、色彩学を通じて西欧と東洋の国境を超えた統一を目指していきたいと思っております。（会員 東 竜太郎）

### NEW BOOK

## ESTHETIC COLOR TRAINING IN DENTISTRY

*Edited by Rade D. Paravina and John M. Powers*



*Welcome to the Homepage of  
Rade D. Paravina, D.D.S.,  
M.S., Ph.D.*

Scientist, Houston Biomaterials  
Research Center

Faculty Associate, Restorative  
Dentistry & Biomaterials

The University of Texas Dental Branch  
at Houston

6515 M.D. Anderson Blvd., Houston,  
Texas 77030

Telephone: 713 500 4477; Fax: 713 500  
4108

E-mail: [rparavina@uth.tmc.edu](mailto:rparavina@uth.tmc.edu)

### . CONTRIBUTORS:

Jane D. Brewer  
Lee Culp

Pamela G. Doray

Jeryl D. English

Rose -Marie Fay

Franklin

Garcia-Godoy

Yumiko Hosoya

Francisco H. Imai

William M. Johnston

Sudarath Kiat-amnuay

Yong-Keun Lee

Huan Lu

M. Ronnier Luo

John D. McLaren

Shigemi

Ishikawa-Nagai

Kathy L. O'Keefe  
Joe C. Ontiveros,  
Jr.

Rade D. Paravina

Rodney D. Phoenix

John M. Powers

Jack D. Preston

James C. Ragain,

Jr.

Leslie B. Roeder

Robert R. Seghi

Gary L. Severance

Robert C. Sproull

Edward J. Swift,

Jr.

Alwin G. Wee

Stephen Westland

Wayne T. Wozniak

アメリカの大学のホームページを開きますと、ESTHETIC COLOR TRAINING IN DENTISTRY という新著が紹介されていました。共著者に本会員がありましたので紹介いたします。細矢由美子先生のご活躍を期待いたします。詳しくは下記アドレスからご覧ください。  
<http://www.db.uth.tmc.edu/Biomaterials/rparavina/>

## 第 13 回日本歯科色彩学会総会・学術大会 プログラム

### 第 13 回日本歯科色彩学会開催にあたって

大阪歯科大学 客員教授・歯科技工士専門学校校長 末瀬一彦

近年、歯科材料の開発・改良は著しく、生体機能の回復において高精度、高機能の修復が可能になっています。とりわけ、歯や口腔に関する修復においては咀嚼、嚥下、発育、表情などの機能回復は当然として、健全な状態と遜色のない自然な修復が望まれています。「歯科色彩学」は、単に歯の色調だけを論じるのではなく形態とバランス、顔貌との調和、機能的な美しさ、あるいは診療室や技工室の環境、診療衣や器材の配色、そして診断学への応用や診療スタッフ、患者さんに与える感情的・心理的な要素にまで及んでいます。

今回の学術大会のテーマは『色は語る！色彩からみえるもの』と題して、私たちが日頃、ことばでは最も伝えにくいとされている『色』について、いろいろな角度から検討したいと思います。そこで、特別講義および教育講演 2 題を企画し、元呑昭夫先生には、国民の共通の願望でもある「美しさ・清潔さ」の代名詞でもある「白さ」について検証していただき、中城基雄先生には歯科的、内科的診査として通常用いられている「舌視診」から診えるものについてご教示いただきます。さらに特別講演では、色彩の快適性を追求したコンピュータによる色彩計画システムの開発を進められ、色彩心理学では国際的に著名な千々石英彰先生に「世界の若者は色をどう感じているか」について研究成果をご発表いただく予定です。また、会員からの一般口演 6 題やポスター発表 13 題の演題をエントリーしていただき、いずれも「歯科色彩学」として大変興味深い、密度の濃い内容であるご発表であると確信しています。

日本色彩学会の会員の歯科医師、歯科技工士および歯科衛生士の先生方、企業メーカーや材料開発者の皆さんはもとより、会員外の先生方にもぜひこの機会に「歯科色彩学」の真髄に触れていただきたいと存じます。

また、今回は前回大変好評でした「色彩感覚涵養大会」の続編を行います。参加者の皆様には気軽にゲーム感覚で色彩の世界に挑戦していただきたいと思います。成績優秀者にはすばらしい賞品も用意しています。さらに学会開催において日頃よりお世話になっています企業メーカーの皆さんからは「最もトレンドな話題商品」の発表を行っていただく予定です。

なお、学術大会に参加される先生におかれましては誠に恐縮ですが、できるだけ事前登録されますよ

うお願い申し上げます。

夏真っ最中の暑い、暑い大阪の地で、熱い、熱い討論をしていただき、その後は「わが校自慢の良質な温泉」で汗を流していただき、さらには間近にライトアップされた大阪城を見下ろす絶景のロケーションでの懇親会で会員相互の親交を深めていただきたいと存じます。

第13回日本歯科色彩学会が無事盛会に開催されますよう、皆様方のご参加と絶大なるご支援を賜りますようお願い申し上げます。

#### 色彩感覚涵養大会（参加無料）

色相を色査 $\Delta E_{uv}=1.0$  感覚で100分割した色（380-780nm）を規定時間内で並べるゲームです。

遊びながら色彩感覚を向上させることを目標とし、歯科技工士学校の教育にも取り入れられています。

参加賞及び入賞者には景品をご用意しています。ぜひとも多数ご参加いただきますようお願い申し上げます。

#### お問い合わせ・連絡先

〒573-1144 大阪府枚方市牧野本町1丁目4-4

大阪歯科大学歯科技工士専門学校

大会長 末瀬一彦                      準備委員長 木本吉昭                      実行委員長 仲宗根幸男

TEL: 072-857-3905                      FAX: 072-857-0080

Eメール: [suese@cc.osaka-dent.ac.jp](mailto:suese@cc.osaka-dent.ac.jp)

# 第13回日本歯科色彩学会総会・学術大会 プログラム

開催日程：平成17年7月30日〔土〕～31日〔日〕

開催場所：大阪歯科大学天満橋学舎〔附属病院〕

大阪市中央区大手前1丁目5-17

(地下鉄谷町線・京阪電車 天満橋駅徒歩5分)

## スケジュール

7月30日(土)								
10:00	12:00	13:30	14:00	15:00	16:30	17:45	18:00	19:30
企業展示準備	常任理事会	参加登録受付	理事会・評議員会	教育講演1・2	色彩感覚涵養大会		懇親会	
7月31日(日)								
9:30	10:00	11:30	12:30	13:00	13:30	16:00	16:30	
学会総会	一般口頭発表	特別講演	昼食	企業展示PR	ポスター発表・討論	ポスター撤去		

## 参加費

区分	事前登録(7月20日まで)	当日登録
日本歯科色彩学会会員	7,000円	8,000円
非会員(歯科医師)		10,000円
非会員(歯科技工士・歯科衛生士)		5,000円
学生(大学・専門学校)		1,000円
お弁当(7月31日のみ)	1,000円	当日販売はありません
懇親会	7,000円	8,000円

## 事前参加登録振込先

三井住友銀行 くずは支店 普通 1971220

日本歯科色彩学会 平成17年度学術大会 末瀬一彦

## 学会参加方法

- ・ 会場にご来場いただきましたら、受付(西館5階臨床講義室前)に必ずお越しください。
- ・ 受付にて、名札・抄録集をお受け取りください。
- ・ 受付開始は7月30日(土)13:30です。
- ・ 参加される方はできるだけ事前登録をお願いします。
- ・ 発表者〔共同演者も含め〕の方は必ず、事前登録をお願いします。
- ・ 7月31日(日)の昼食〔お弁当〕は事前予約制になっています。
- ・ 7月30日〔土〕の懇親会〔事前登録制〕にはぜひご出席ください。  
(プラザフォーティーンは大阪城を眼下に、市内を一望できるすばらしいロケーションです)
- ・ 天満橋学舎には、「ODU ウェルネスホール」(温泉・温水プール)があります。ぜひともご入湯いただき、疲れを癒してください(ご希望の方は事前にご連絡ください)。

7月30日〔土〕

12:00-14:00	常任理事会	附属病院14階 プラザフォーティーン
12:00-15:00	理事会・評議員会	附属病院14階 プラザフォーティーン
15:00-15:45	教育講演 1 「白と白の色彩学」	西館5階臨床講義室 カラーランド研究所代表取締役 元呑昭夫 先生
15:45-16:30	教育講演 2 「舌の色から変わる歯科医療」	東洋医学研究会 中城基雄 先生
16:30-17:45	色彩感覚涵養大会*	西館5階臨床講義室
18:00-19:30	懇親会	附属病院14階 プラザフォーティーン
12:00-17:30	企業展示	西館5階ゼミ室

7月31日〔日〕

9:30-10:00	学会総会	西館5階臨床講義室
10:00-11:30	一般口頭発表	西館5階臨床講義室
10:00-10:15	1. 歯の色に対する一般学生の認識〔第2報〕 細矢由美子 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科医療科学専攻発生分化機能再建学講座 小児顎口腔発達管理学分野	
10:15-10:30	2. コ・デンタルスタッフに適したユニフォームの色彩に関する研究 第2報：環境色が変わった時の歯冠色の記憶の比較 木暮ミカ、金子 潤、五十嵐雅子 明倫短期大学	
10:30-10:45	3. 歯科色彩学における色差の考察 片山伊九右衛門、高 承志、王 新知*、岩崎嘉代**、片山 直**、元呑昭夫*** 北京大学人民医院口腔色彩研究室、*北京大学口腔医学院、 **明海大学歯学部機能保存回復学講座保存修復分野、***カラーランド研究所	
10:45-11:00	4. 口唇などの環境変化による歯冠色の見えの評価 一特に視感比色法と分光測色法との比較一 岩崎嘉代、片山伊九右衛門、片山 直 明海大学歯学部機能保存回復学講座保存修復分野	
11:00-11:15	5. 開業医に出来る歯科臨床色彩評価・活用法 久保茂正、中城基雄、椋梨兼彰、東竜太郎、英保武志、古谷慶志 TAO 東洋医学研究会舌診専攻班	
11:15-11:30	6. ヒト象牙質の色と歯冠色について 塚原 梢、藤田 光、岡田珠美、神谷直孝、若松尚吾、久光 久*、池見宅司 日本大学松戸歯学部う蝕抑制審美治療学講座、*昭和大学歯学部齲蝕・歯内治療学講座	
11:30-12:30	特別講演 「世界の若者は色をどう感じているか」 武蔵野美術大学造形学部 教授 千々岩英彰 先生	
12:30-13:00	昼食・休憩	
13:00-13:30	企業展示・デモンストレーション	西館5階ゼミ室

13:30-16:00

ポスターで発表

西館5階臨床講義室

- P1. 着色象牙質に対するオペークレジンの厚さの予測  
渡邊康夫、田川剛士、木村 大、岩井啓寿、河野善治、上江州香實\*、池見宅司  
日本大学松戸歯学部う蝕制御審美治療学講座、\*日本大学松戸歯学部総合口腔医学〔数学〕講座
- P2. 半透明性材料の測色基準に関する提案  
塚原 梢、平山聰司、山本憲廣、森 俊幸、勝海一郎\*、元呑昭夫\*\*、池見宅司  
日本大学松戸歯学部う蝕制御審美治療学講座、\*日本大学松戸歯学部歯科保存学講座  
\*\*カラーランド研究所
- P3. 試作ホワイトニング剤の色および表面性状におよぼす影響について  
岩崎 覚、八木裕太、小澤有美、片山 直  
明海大学歯学部保存修復学講座
- P4. ナノフィラーを用いたコンポジットレジンの色について  
宮本めぐみ、廣瀬直子、劉 民喜、片山 直  
明海大学歯学部保存修復学講座
- P5. 歯肉色の客観的評価と臨床評価との関連性について  
緒方智壽子、上田雅俊、今井久夫  
大阪歯科大学歯周病学講座
- P6. 修復用コンポジットレジンの光透過率と透過光強度分布  
岡 正信、堀田正人、山本宏治  
朝日大学口腔機能修復学講座歯冠修復学
- P7. 知覚過敏抑制材 MS コートの漂白効果に対する影響  
西村 香、張 虹\*、東光照夫、久光 久  
昭和大学歯学部う蝕歯内治療学講座、\*大連医科大学附属第一医院口腔内科
- P8. コンビネーション漂白における基礎的研究  
中澤妙衣子、天谷哲也、大須賀敬悟、高瀬保晶、平井義人、細矢由美子\*  
東京歯科大学歯科保存学第三講座、\*長崎大学大学院医歯薬学総合研究科
- P9. CO<sub>2</sub>レーザーを併用したオフィスブリーチング—第1報—牛歯による測色—  
天谷哲也、中澤妙衣子、篠原 崇、大須賀敬悟、五十嵐章浩、加藤 純、高瀬保晶、  
平井義人、細矢由美子\*  
東京歯科大学歯科保存学第三講座、\*長崎大学大学院医歯薬学総合研究科
- P10. テンポラリークラウン製作用常温重合レジンの色調変化  
吉田 司、鈴木 亨、山本 宏、竹内 操  
奥羽大学歯学部歯科補綴学講座
- P11. 加熱重合が歯冠用硬質レジンの色調安定性に及ぼす影響  
鳥井克典、鷹尾智典、藤井孝政、柏木宏介、末瀬一彦\*、川添堯彬  
大阪歯科大学有歯補綴咬合学講座、\*大阪歯科大学歯科技工士専門学校
- P12. 他業種の専門家による色の表現技術に我々が学ぶ点  
野々田太、土屋総一郎、滝嶋 博、三澤弘子、倉澤郁文、甘利光治、大島和成  
松本歯科大学歯科補綴学第二講座
- P13. 歯科臨床における色彩評価法  
東竜太郎、英保武志、久保茂正、中城基雄、棕梨兼彰、古谷慶志  
TAO 東洋医学研究会

9:30-15:30

企業展示

西館5階ゼミ室

## 会場へのアクセス

1. 新幹線（新大阪駅）から、地下鉄御堂筋線（新大阪駅）15分淀屋橋駅乗換え、京阪電車5分、京阪天満橋駅下車
2. 京都駅から、近鉄線奈良方面10分で丹波橋駅乗り換え、京阪電車淀屋橋方面特急30分で京阪天満橋下車
3. 大阪伊丹空港から、大阪モノレール千里中央で地下鉄御堂筋線乗り換え、淀屋橋駅で京阪電車に乗り換え5分で京阪天満橋駅下車
4. 関西空港から、JR 関空快速で大阪方面へ、天王寺駅乗り換え、地下鉄谷町線天王寺駅（御堂筋線ではない）から東梅田、大日、都島方面に15分、地下鉄天満橋駅下車  
(天満橋駅から徒歩5分大阪歯科大学病院の大きな建物が見えます)

## 発表者の皆様へ

1. 口頭発表
  - ・ 発表はすべて液晶プロジェクターによる発表形式とします。
  - ・ パソコンは各自ご持参ください。(使用ソフトはMicrosoft Power Point でお願ひします)
  - ・ 発表時間は12分、質疑討論は3分です。時間厳守でお願ひします。
  - ・ 発表15分前には次演者席にお着きください。
2. ポスター発表
  - ・ ポスター発表用のボードは高さ210cmX幅90cmです(上部30cmに演題・発表者・所属)を明示してください)。
  - ・ ポスター掲示用プッシュピンは各自ご用意ください。
  - ・ ポスターの掲示は7月30日(土)13:30-14:45の間に西館5階臨床講義室内にお願ひします。
  - ・ ポスター発表・討論は7月31日(日)13:30-16:00の間に、プログラム順に5分間の説明を行っていただきます。
  - ・ ポスターの撤去は7月31日(日)16:00-16:20の間に行ってください。

口頭発表及びポスター発表から優秀賞を選出させていただき、7月31日(日)16:00に発表させていただきます。

## 企業展示

- ・ 企業展示は7月30日(土)10:00-13:00の間にお願ひします。
- ・ 展示用机は1台、電源は100Vを1つ準備(ご要望があれば)しています。
- ・ 7月30日(土)及び31日(日)共、西館5階ゼミ室において企業展示をしています。
- ・ 7月31日(日)13:00-13:30の間には各企業のPRタイムを設けています。  
展示協賛企業(順不同)
- ・ モリタ、松風、メディア、トクヤマデンタル、セリック、カラーランド研究所

